



まちの話題

いつまでもお元気で

村田 シズエさん 100歳のお誕生日

村田シズエさん（鷹島・阿翁）が2月18日、100歳の誕生日を迎えました。

村田さんは大正8年、鷹島町の専業農家の7人姉弟の二女として生まれ、たばこ農家に嫁ぎ、一男四女をもうけました。ご主人が若くして病に倒れてからは、20年以上夫の看病をしながら、家業を守り子どもたちを育てあげました。働き者の村田さんは、長男とともに95歳まで畑仕事もされていました。現在は、介護療養型医療施設「鷹島診療所」に入所されています。

家族らからお祝いの言葉や花束、ケーキなどを受け取り、にぎやかに100歳の誕生日を過ごされました。



自ら交通ルールを学び発信する

交通少年団入退団式

御厨小学校、志佐小学校、今福小学校で交通少年団入退団式が行われました。松浦市内には、現在3つの小学校を母体として組織された交通少年団があり、正しい交通ルールを学びながら交通事故を防止するためのさまざまな活動を行っています。

2月14日に志佐小学校で行われた交通少年団入退団式では、旧団長^{もとよし りゅうや}本吉竜也さんから新団長^{いまむら かおり}今村圭紀さんへ団旗引継ぎがありました。本吉さんは「中学校でも交通安全への意識は強く持ち続けます」と話し、今村さんは、「この団旗の重みは交通少年団のこれまでの活動の重み。私たち5年生と4年生でしっかり頑張ります」と話しました。

団員たちは、今後各地で交通安全啓発活動などを行っています。



いつまでもお元気で

森近 ハマエさん 100歳のお誕生日

森近ハマエさん（調川・前浜団地）が2月15日、100歳の誕生日を迎えました。

森近さんは大正8年、佐賀県相知町で6人兄妹の二女として生まれました。27歳で結婚し、炭鉱で働いていたご主人とともに、土木作業などの仕事に就き、4人の子どもたちを育てあげました。若い頃から読書が好きで、自宅には数百冊もの本が並んでいるそうです。ご主人を亡くされてからは長男と2人暮らしでしたが、平成25年からグループホームひなたぼっこで過ごされています。当日は、家族や入居者らから祝福を受け、うれしそうに笑顔を見せてくれました。



日常では得られない時間

第9回まつうら音楽コンクール

第9回まつうら音楽コンクール（松浦音楽連盟主催）が文化会館で開催されました。中学校部門が1月26日・27日、小学校・大学一般・高等学校部門が2月3日に行われ、市内外から225人が出場し、ソロ演奏の技術を競いました。

出場者たちは、高い集中力を発揮し、日頃磨いた音楽表現や演奏技術を披露しました。各部門の最優秀グランプリは、次のとおりです。（敬称略）

- 【小学の部】古木 真桜（長崎市立戸町小学校）
- 【中学の部】峯 汰一郎（時津町立時津中学校）、
藤原 万葉（松浦市立志佐中学校）
- 【高校の部】八代 颯（県立長崎南高等学校）



ボランティアの輪を広げる

中学生の地域貢献活動

中学生によるアルミ缶回収収益金による寄贈式が2月20日、武部病院で行われました。市内中学校では、平成10年からアルミ缶回収に取り組んでおり、その収益金で地域の福祉施設に役立つものを寄贈しています。今年度の収益金は、71,212円(回収量1,890個)で、リクライニング車椅子を寄贈しました。

寄贈式には、市内生徒の代表として今福中学校の生徒7人、校長らが参加。今年度の活動を報告し、院長に目録を手渡しました。

今福中学校では、生徒会の生活委員会が中心となって活動を行っています。昨年委員長を務めた寺澤翔太さんが、「週2回、生徒同士はもちろん、地域の皆さんとも協力してたくさん回収することができた」と活動を振り返りました。



豊かな自然がみせる野鳥の姿

まつうら自然の会結成 20 周年記念講演会

まつうら自然の会結成 20 周年記念講演会「西の端からおもしろい長崎の渡り鳥」が2月23日、生涯学習センターおよび志佐川周辺で開催されました。

講演会は、日本野鳥の会長崎県支部会員の馬田勝義氏を講師に招き、講演会と野鳥観測会の2部構成で行われ、市内外から約100人が参加しました。

参加者たちは、長崎県が、大陸に近く離島が多い地理的特性を持つことから、渡り鳥の重要な飛来地となっており、多種多様な野鳥が観測できる場所であることを学びました。また、実際に野鳥を観測し、身近に観察できる野鳥がいることやそれを育む豊かな自然を改めて実感していました。

同会は、身近な自然に目を向け、楽しみながら学び、守る活動に取り組まれています。



まちを守る熱い想いを訴える

消防職員意見発表会

消防職員意見発表会が2月18日、消防本部で開催されました。この発表会は、消防職員の自覚と志気の高揚、職員の資質向上を図ることを目的に開催されています。今回は6人の消防職員が出席し、日ごろの業務を通して感じたことや今後消防業務に取りくむべきこと、減災の進め方や目に見えない危険などのテーマで発表しました。

審査の結果、荒木悠史さんの「避難を身近なものに」が最優秀賞に選ばれ、荒木さんは、地域の特性である横の繋がりを活かして連絡網を整備し、住民が協力して避難できる環境づくりが重要だと訴えました。

荒木さんは、4月に諫早市で開催される第42回長崎県下消防職員意見発表会に出場します。



自分の未来のつくり方を考える

カタリ場 in 松高

「カタリ場 in 松高」が2月21日、松浦高校で開催されました。「カタリ場」は、NPO法人カタリバが提案する高校生の進路意欲を高めるキャリア学習プログラムで、「自分もこんな大人になりたい」という出会いをきっかけに、より主体的な生き方や意志ある進路選びを踏み出すきっかけづくりを目的に行われています。

この日は、同校の2年生111人と調川中学校2年生16人が参加。体験談発表では、大学生や社会人の少し年上の先輩たちから話を聞き、座談会では、少人数のグループになって進路のことや聞いてみたいことなどを先輩と自由に話しました。参加者たちは、漠然とした将来への不安を解消し、未来の自分について考える機会になりました。

